昭和51年9月7日　第三種郵便物認可（毎月１・５・１１・１５・２１・２５日発行）令和4年6月5日発行OTK通巻5597号

OTK つなぐ

2022 Report

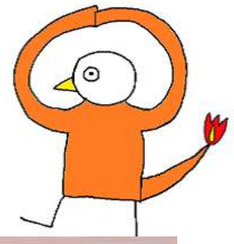
活動報告書 2022

多くの方に支えていただき、寝屋川市民たすけあいの会は、2018年の台風21号での被災と道路拡幅による建物の取り壊しと敷地の縮小などを乗り切ってきました。そんな感謝をこめて、そして、今後の新しい活動の方向性をお伝えするために、今年も活動レポート（年次活動報告）をお届けいたします。

なお、いままで発行していました「事業報告書」はこれまでと同じ形式で、ホームページに掲載しております

2022年　ありがとうございました

2023年　よろしくお願いします



特定非営利活動法人

寝屋川市民たすけあいの会

後藤　雅子　多久　寛子　中務飛鳥

【2022年度　寝屋川市民たすけあいの会　活動報告】

もくじ

・大阪商工信用金庫　大阪商工信金社会貢献賞受賞
・ぼちぼちはうす＆ゆと・りろ　－日中活動－
・寝屋川コミュニティフリッジ
・ひきこもり者支援
・ボランティア活動＆ハートアート展
・NPO法人芽ばえさんとの協働事業
・相談支援、くらし支援
・その他の活動
・財務状況の報告

寝屋川市民たすけあいの会のLINEスタンプ　発売しています！

寝屋川市民たすけあいの会のLINEスタンプは第1弾は昔から使っていたイラストをNEFNEさんのご協力でスタンプ化して発売しました。第2弾はたすけあいの会にかかわっているメンバーさんがオリジナルで作成。

このたび、大阪商工信用金庫様が実施されている第16回「大阪商工信金社会貢献賞」地域貢献の部を寝屋川市民たすけあいの会が受賞いたしました。

本来は受賞団体が呼ばれて行われるはずだった授賞式でしたが感染状況から訪問して手渡しという形になったので、【ならば】みんなで！と。2022年9月20日、みんなで受賞しました。

「審査評」

地域の困りごとをみんなで解決していくことから始まった団体。「お互い様」の気持ちを大切に、支援する側・支援される側の垣根をなくすことで、「自分は相手の為、相手は自分の為」に思いやる風土の醸成に貢献している。貧困問題・要支援問題を抱えた障がい者等が多く暮らす地域に密着した活動は、寝屋川市になくてはならず、今後ますますの発展と他エリアへの波及が期待される。

寝屋川市民たすけあいの会の運営する日中活動の場は大きくは主に重度重複障害の方が通う「ぼちぼちはうす」、主に精神障害の方が通う「ゆと・りろ」、そして主に、高次脳機能障害の方が通うユニットの3つがあり、そこに「リハビリ」が加わっています。制度的には障害者総合支援法の【地域活動支援センターⅡ型】と「重度障害者等包括支援事業」を使って支援者がついての日中部分となります。

ぼちぼちはうす

大阪府に申請をして、「みどりの基金」から樹木をいただきました。みんなでボランティアさんにもきていただき、植樹をしました。

「キングジョー」出現　→

少しずつボランティアさんにもきていただけるようになりました

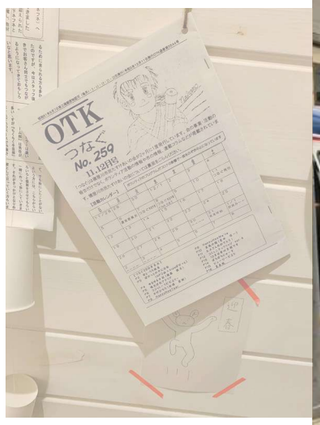
ギネスに挑戦？

ぼちぼちはうす、部屋いっぱいの太巻き

↓　中庭で水鉄砲　↓

少しずつ街に出ることができるようになってきました。

「つなぐ」配達部隊は工夫をこらして(「仮装」をして)【NEFNEにて】



寝屋川市のカフェ＆お弁当の「ゴマジェット」さんが、新しく「ゴマジェットカフェカレー」をオープン。さっそくみんなで、おじゃましてきました

宇陀市の【アクティブセンターうだ】さんと、定期的にオンラインで交流しています。

ゆとりろ

ランチ王（月・木・金／・土（月2回）

2018年の台風21号での被災以降、「ゆと・りろ」の場所は「すだち」の2階に移動しています。それほど、場所が広くないところなので、新型コロナウィルス対策のため、今年度も人数を制限しての活動になっています。その中でも、プログラムの工夫やプログラムの活用の方法を相談しながら変化しています。

【ネクスト・ステップ】

火曜日の午前に開催している「クック★らん」は短時間でのほぼマンツーマンに近い食事づくりのプログラム。そして期限は一年。中には「クック★らん」を終えてから「ゆと・りろ」の他のプログラムへの参加につながる方もおられますし、食事は難しいという方が「クック★らん」の「支援方式」を使って、「ゆと・りろ」の午後のプログラムの利用をされている方もでてきています。

他の事業所との併用や次の活動へのファーストステップとしての活用も増えています

新たな展開　【金曜　ゆとりろ】

どうしてもここ数年メンバーが固定化してきていた中、新たな展開を金曜日のプログラムではおこしています。ベテランのメンバーに、新人スタッフが加わってのプログラムの展開！そして、支援者つきでの参加など。そんな金曜日のプログラムメンバーからの

【コミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）とは？】

公共冷蔵庫、もしくはコミュニティ・フリッジは、公共空間の中にある冷蔵庫（refidgerator、口語的にはfridge）のことです。公共冷蔵庫は、コミュニティの中で食べ物を共有できるようにする相互扶助プロジェクトの一種であると言われていて、2010年代初頭のヨーロッパから全世界に拡がっています。　日本では2020年ごろからはじまりました

寝屋川コミュニティフリッジ

こまったときはおたがいさま　おたがいさまの気持ちで支える「公共冷蔵庫」（コミュニティフリッジ）

いま、市内に４カ所の収集拠点を設けていただいています。

市民会館　喫茶「コッカラ」内

八坂町　雑貨店「NEFNE（ネフネ）」内

成田東町　超泉寺

社会福祉法人みつわ会さんの「あおぞら」他、各通所施設でも集めていただいています。

「寝屋川コミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）」は、新館の旧ぼちぼちはうす側の建物の一部を改装し、2021年10月にスタートしました。2022年9月から24時間365日無人で利用できる状況になりました。寝屋川市内の「ひとり親家庭とそのこどもさん」「生活困窮者」を対象にしています。2022年度の終わりから、取り扱い量を増やすため企業様からの食品の寄贈を増やしています。

寝屋川コミュニティフリッジホームページ

https://peraichi.com/landing_pages/view/neyagawacommunityfridge/

食品や日用品をご寄贈いただきました企業様。ありがとうございます

桃谷順天館、　NPO日本もったいない食品センター　株）ジャポニックス　（株）日本アクセス

（株）日本SW　公益社団法人　日本非常食推進機構　　むすびぃ 渡辺車輌工業株式会社

生活協同組合　おおさかパルコープ子ども食堂フードバンク　SOMPOケア そんぽの家 萱島

特別養護老人ホーム　和の里　NPO法人おてらおやつクラブ　　（敬称略）

令和4年12月の寝屋川市広報に紹介されました

ひと物語 vol.75

“みんなの冷蔵庫”で生活支援

寝屋川市民たすけあいの会共同代表理事 後藤雅子さん（66歳・長栄寺町）

寝屋川市民たすけあいの会が、生活に困窮する人たちを支援する関西初の公共冷蔵庫「寝屋川コミュニティフリッジ」を開設して1年。後藤雅子さんは「困っていても声を上げられない人たちに食品を届けたい」と、その思いを語ります。

◇

たすけあいの会は、障害者などの支援やボランティア活動を行うNPO法人。その施設の一角に昨年10月にオープンした公共冷蔵庫があります。キャッチフレーズは「地域のみんなの冷蔵庫」。広さ約10㎡の一室に個人や医療施設、企業などから寄せられた米やカップ麺などの食料品、洗剤やトイレットペーパーなどの日用品が保管され、生活困窮者などがいつでも無料で利用できます。

人脈生かし相談活動

後藤さんは福祉職として23歳で大阪府庁に入り、2度赴任した寝屋川保健所に通算8年間勤務。精神福祉相談員だった最初の異動のときにたすけあいの会と出会いました。「福祉関係同士の強い絆に感銘を受け、定年後はぜひ寝屋川で活動したと思いました」。

その言葉通り定年を迎えた6年前にたすけあいの会へ。「公務員だけではやりきれなかった」というひきこもり状態の人たちを支援する相談活動に奔走し、「40年以上の歴史がある会の看板をいただき、一番やりたかったことをさせてもらっています」と話します。

先進的な仕組み導入

ヨーロッパ発祥のコミュニティフリッジが国内で初めて岡山市で開設されたのは2年前。この年に後藤さんは共同代表理事に就きました。

会では以前から生活困窮の問題に関心を寄せていましたが、岡山市での先進的な取り組みを知り、会でも導入を検討。インターネット上で資金を調達するクラウドファンディングで130万円を集め、会独自の仕組みをスタートさせました。

生活困窮支援を優先

岡山方式と違う最大の特徴は利用者を応援する支援者枠を設けたことです。「生活困窮者やひきこもりの人たちの中には声を上げたり、自宅を出ることが出来なかったりする人が多く、そういう人たちを優先的に支えています」。

仕組みはこうです。福祉団体などの担当者が支援者となり、一緒に公共冷蔵庫を訪れた利用者がスマートフォンのアプリで電子ロックを解錠。バーコードで読み取った食料品や日用品を持ち帰り、外出できない利用者には自宅まで届けています。

人つなぐ支援に手ごたえ

開設から1年となり、「食べ物は人と人をつなぐきっかけや生活の様子や悩み事を聞く機会を作ってくれる手ごたえを感じています」。子どもがいる困窮家庭にも拡大し、今後の課題は「食料品などの支援を一層進めるために、質と量ともに、安定した供給は欠かせず、皆さんからの協力をさらにいただきたい。これに尽きます」。

施設の一角に開設されたコミュニティフリッジ

ひきこもり者支援

	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	相談元
新規	2	10	3	0	1	4	2	2	地域包括支援C 2、相談支援事業所 4、障害福祉課3、就業・生活支援C 1、就労継続支援事業所 2
継続	8	6	0	1	0	7	4	2	地域包括支援C 2、相談支援事業所 1、障害福祉課 2、保健所2、こども相談課 1、社協CSW 1、社協生活支援 2、相談支援事業所 1、自立訓練事業所 1、定時制高校 1 地域包括支援C 2、相談支援事業所 1、障害福祉課 2、保健所2、こども相談課 1、社協CSW 1、社協生活支援 2、相談支援事業所 1、自立訓練事業所 1、定時制高校 1

2 ひきこもりの背景にある問題

背景にある問題（把握できた場合のみカウント）	男	女	計
発達障害か精神障害か軽度知的障害を有する	7	14	21
若年からの、あるいは3年以上に渡るひきこもり	9	13	22
10代半ばに既に躓きあり	4	4	8
家族なし、あるいは家族も問題を抱えているか、孤立している	9	12	21
職歴（アルバイト含む）なし	1	4	5
生活困窮あり（生活保護受給中の男性6女性３含む）	6	11	17
こうなればという欲なし	3	4	7

上記の問題6個以上あり　男 1、女 2 ／ 5個 男 1、女 3 ／4個 男 5、女 3

3 相談・支援内容

①相談があり連携継続対応 新規2	（紹介元・連携先 相談支援事業所 2、）
②相談があり、他機関につなぎ、その後も含め連携継続対応 5（うち新2）	（つなぎ先 市こども担当課、保健所、社協生活支援、就労継続支援事業所 ）
③相談があり、単独支援したのち他機関につなぎその後も連携継続対応 1	（つなぎ先 精神科診療所+相談支援事業所 1 ）
④相談があり、他機関につなぎ、そこでの支援が主となり、後方支援 1	（つなぎ先 保健所）
⑤相談があり他機関に一時的につないだ後、見守り支援 1	（つなぎ先 社協生活支援）
⑥相談があり、他機関と共に連携継続対応 4	（社協CSW +社協生活支援1、障害福祉課+保健所+精神科病院 2、社協生活支援+自立訓練事業所+地域包括支援C 1
⑦紹介元支援スタッフが不在となり、支援者を増やし継続対応 6 継続	（つなぎ先 地域包括支援C 1、保健所 1、当所日中活動プログラム⇒就労継続支援事業所2、当所日中活動プログラム⇒就労継続支援事業所+就業・生活支援センター 1、相談支援事業所+訪問看護 1）
⑧方向性整理のみ 6（新規）	

寝屋川市民たすけあいの会のひきこもりつなぎ相談について

関係機関職員向けの電話、メールによる相談を平成28年4月より行っています。市民からの相談は直接は受けずに、相談・支援者に伴走し、つなぐというスタイルの相談を基本としています。

事例への支援を通して見えてきたこと

・新規相談、10代の相談／女性が多く。母子共々に生き辛さを抱え、双方に影響を及ぼし合っている事例が多かった。

・虐待あるいは被虐待事例として対応された後、ひきこもり課題があるとして相談がある事例も多い。（8人　うち新規4人）

・背景として問題を複合的に抱えている事例が多い。7割弱に生活困窮課題があった。

・10代半ばに躓きがあり、その要因として精神疾患や発達障害や軽度知的障害がある事例が多くみられた。

◎ 関係機関と連携して支援することで、複雑な背景のある事例についても見通しが見えていく。

・支援者会議やケア会議を必要なタイミングで行うことが、効果的であった。

◎ 粘り強い支援を継続していくことが重要

・一家が在日外国人で、定時制高校より相談があった事例は、6年かけて卒業に至ることができた。

・日中活動へのつなぎとして、障害がある事例については、就労継続事業所を活用することができた。（5人）

◎ 生活困窮者支援を加味する必要性がある場合が多い

・社協生活困窮者支援事業担当者との連携が大切。

・虐待リスクがある一家生活困窮事例に、コミュニティフリッジ利用という切り口で関係を作り、被虐待者を保護してもらった後、ひきこもり事例を関係機関と連携してフォローしている事例も2人ある。

・受診と日中活動にはつながるも、高齢の親のアルコール問題のために健康な暮らしを妨げられている事例については、コミュニティフリッジの活用で食生活の安定を図り、親への見守りを包括支援センターに依頼した上で、一人暮らしにつなぐことができた。

・生活困窮と、ひきこもり状態の親からの支配があり、就労支援が効果的に進まないという関係機関からの相談で、関連する機関同士をつなぎ、連携対応している事例もある。

◎コミュニティフリッジとの連動　・孤立している人の発見と社会参加の促進という寝屋川の地域課題にも添うものとなるよう、「支援者枠」利用という形を設け、支援者が一緒に食品保管庫に入る、あるいは、来所も難しい場合には訪問して食糧を届け、ひきこもりつなぎ相談対象者との関係作りに食糧支援を活用した。（4人）

今後に向けた課題

・伴走支援がキーワードになるが、時間も労力も経験知も必要で関係機関にそれを求めることが困難な場合もある。

・就労に結び付けることは難しく、しかも生きづらさを障害と捉えることも不適当と考えられる事例をサポートできる仕組みがほぼ無い。

・10代半ばに躓きがあった事例が多くひきこもりの長期化防止の視点からもしっかりした対応が求められる。しかしその年代は支援者になってくれる立場の人が少なくめざしている「連携対応」がどのようにできるかが見えにくい。

・障害があり、通院以外は社会とのつながりがない人について、ひきこもりという視点から相談があがり、連携対応する事例が毎年あり（新規2人）、相談機能を加味したプログラムの工夫が必要。

・本人だけではなく一家の孤立防止を地域の課題として考えていくことが大切。

・ひきこもり状態のまま社会から孤立している人を積極的に発見し、必要な場合は相談支援に結び付けられるようにするための発信は重要で、今年度は校区福祉委員も対象に加えたセミナーの開催を予定している。

・とりわけ孤立したままになっている8050事例が多く存在しているだろうことが気がかりだが、地域包括支援センターからの相談がなかなか上がらない。

・併せて、本人が自分のペースで対人交流したり、やり甲斐を感じられる体験ができたり、無理なく働く経験ができるような、機会作りの検討も必要。

新型コロナウィルスの影響で、もっとも大きな影響を受けているのはボランティア活動です。また、寝屋川市の総合センターが地震と台風の影響で閉鎖になり、保健福祉センターも新型コロナ関係の事業の影響で、私たちがお借りして、使うことができる部屋がどんどんなくなっています。そのため、ほとんどすべての活動ができなくなっています。

ボランティア活動

そんな中で、続けることができている活動は、寝屋川市民たすけあいの会が発足当時から続けさせていただいている【特別養護老人ホーム　寝屋川十字の園】への月1回の訪問活動です。

2022年度も計11回。訪問活動をさせていただいています。現在は、縫製や布裁断などの活動が主になっています。

サロン系の人があつまってのボランティア活動もなかなか開催することが難しい中、【ボランティア・サロン＝「つなぐ発送」ボランティアは、引き続き開催しています。

4月，6月，8月，10月，12月，2月は、たすけあいの会での、「つなぐ」の発送作業を毎回2日間行っています

ハート・アート展

2022年　2月19日～21日
市民ギャラリーで3日間開催!!

来場者数：320名

Youtube版 再生数 80回

＜アンケート回収率52%＞
とてもよかった 67%

よかった 30%

「寝屋川ハート・アート展」の模様

第7回 寝屋川ハート・アート展

寝屋川市内の医療機関や作業所に通う精神障害者らの絵画など手芸など約80点が出展されていた。

「第7回寝屋川ハート・アート展」が、2月19日（日）～21日（火）の3日間、市立市民ギャラリーで開催され、約350人が来場した。

「冬物語♡アートに夢中になるのは貴方だ」が今年のテーマで、約60人のメンバーの水彩画や手芸など約80点が出展されていた。

来場した市民らは、作品の下に、コメントカードを書いて貼り付けていた。「癒される絵です」「勇気が湧きます」「かわいい」など率直な感想が書かれていた。

「虹」を描いた大東市の森勝則さんは「1時間で描きました。絵を描くのは楽しく、アート展を通じてたくさんの人からの感想を聞けるのもうれしい」と話した。

障害者の社会参加を支援する寝屋川の団体「Club E&T」が中心となり、作品を通じて精神障害への理解を深めてもらおうと毎年開催しているとのこと。

森さんの「虹」の作品

NPO法人　芽ばえさんとの協働PJ

寝屋川市民たすけあいの会は地域のさまざまな活動をされている個人や団体の方と連携しながらこれまでも活動をつづけてきました。そんな活動の中には、新生児さんへの沐浴のボランティアや医療的ケアの必要なこどもさんへの支援、育児サークルの支援なども行ってきました。いまでも少しずつ形は変えながら、さまざまなこどもさんとご家族への支援も続けています。このたび、寝屋川市で活動する「NPO法人芽ばえ」さんと協働で、「小さく産まれてきた赤ちゃん」へかわいい産着を贈るプロジェクトをさせていただくことになりました。

活動自体はすでに数年の実績があり、当会としては、クラウドファンディングを実施。服を作成するための材料費などの資金の寄付を募りました

そして、その取り組みが

子育て支援に関する制度を紹介する一般社団法人「日本子育て制度機構」（大阪市浪速区）が主催される、優れた制度や取り組みをたたえる「ベスト育児制度賞」の受賞につながりました。

「低出生体重児は、出生後にも医療的ケアが必要となる場合も多く保護者への手厚いサポートが求められます。経験からの思いやりの視点を評価いたしました。」 と評価をいただきました。

https://www.ikuhaku.com/mains/est_2021osaka_detail/

市長とお会いしました。（市広報より）

子育て支援の取り組みがベスト育児制度賞を受賞

「小さく生まれてきた赤ちゃんへの贈り物」事業に取り組むNPO法人芽ばえと事業運営に協力したNPO法人寝屋川市民たすけあいの会が、子育て支援に関する制度を紹介する一般社団法人「日本子育て制度機構」が実施する優れた制度や取り組みをたたえる「ベスト育児制度賞」を受賞しました。

NPO法人芽ばえは市販されていない小さいサイズのベビー服が必要な保護者のため、低体重で小さく生まれてきた赤ちゃんの産着やベビー服を作って、市子育て支援課を通じてプレゼントしてきました。

寝屋川市民たすけあいの会の相談支援は、寝屋川市から委託を受けて運営をしている障害者相談支援事業と、病院や施設からの退院、地域移行・地域定着を支援する一般相談と、サービスの利用を支援する計画相談・障害児相談、そして、それらの相談の枠にはまらない「福祉相談」があります。

また、寝屋川市からは障害者虐待防止センター事業の一部と、ピアカウンセリング、寝屋川市自立支援協議会の運営にかかる事務局事業の補佐的役割も委託されています。

相談支援

1）相談支援の状況

年間だいたい8000～9000件の相談・支援を行っています。2022年度はこどもの相談が増加しました。生活支援全体のマネジメント・調整が多いのは以前から引き続きになります。

2）寝屋川市自立支援協議会の事務局事業の補佐活動

寝屋川市自立支援協議会は平成18年度に発足しました。寝屋川市障害者計画の各期にあわせて、その内容、事業を変えながら、そのときの活動に取り組んでいます。現在は、事務局会議の他に、5つの部会（就労、精神、障害児、地域活動、相談）があり、三層構造（実務レベルの会議、専門会議、サブワーキング）で活動をつづけています。私たちは、その活動に一機関として参加するだけではなく、運営にも補佐的に携わっています。

ヘルパーステーション

寝屋川市民たすけあいの会の運営する障害者総合支援法のヘルパー事業は、重度訪問介護、行動援護、移動支援、重度障害者等包括支援になります。どの事業も現在、利用者の募集はしておりません。

くらし支援

新型コロナにご本人、ご家族が罹患された方も少なくなく、そのたびにギリギリの綱渡りの支援をご家族と協力して行っています。

「ひとりぐらし」とその支援は、綱渡り状態が続いています。二次障害、三次障害と年齢とともに、ご本人の状況も変わってきています。

【ソーシャルワークアカデミーの開催】

NPO法人み･らいず2さんとの共済事業年間 全6回の有料のオンラインセミナーを行っています。

【スタッフ研修 】

虐待防止、身体拘束について

2回シリーズの1回目。自傷行為を行うメンバーについて、何故自傷しているのか（何を伝えようとしているのか）を3つの場面で考えるグループワークを行う。改めて多くの意思表示があることを皆で共有すると同時に、実際に対応を行う際に、ご本人の意思表示として伝えたい思いを受け止められているのかを自らに問い直す機会となった。

（虐待防止委員会･身体拘束適正化委員会実施に伴う研修として）

【大学などへの講師として】

･追手門学院大学

･神戸女学院大学

･関西学院大学

･日本福祉大学

･京都光華女子大学　　などへ

講師、ゲストスピーカーとして

【スタッフ研修 】

「語り処「ふらぁっと」～いるか酒～ 」

1人ずつくじで引いたテーマについて語る。トーク時間は一人3分での対談形式。会場を居酒屋風にセッティングし、リラックスして語れる雰囲気を作って。たすけあいの会での関わりで各々が感じていることを、楽しい雰囲気の中、各々がたすけあいの会のなかで持っているエピソードや感じていることをスタッフ同士で共有することができた。

【イエローレシート・キャンペーン】

四條畷イオンで参加中

一人暮らしの方用の家電製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなど）や家財道具の寄付をいただき、それをストックしておき、相談いただいたケースで、提供させていただいています。

決算情報公開

【財務状況】

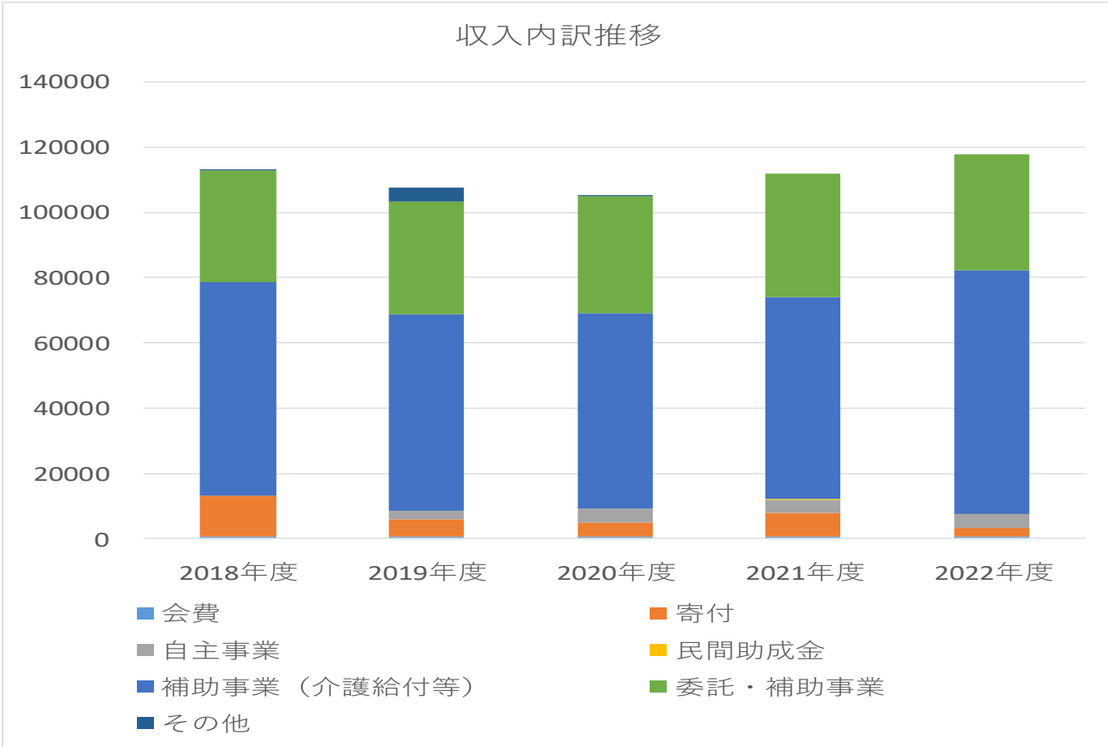
・ここ数年と同じく、非営利事業（寄付や会費など）は黒字で、その他の事業（介護事業など）は赤字です。ただし、今年度は、その他の事業の赤字が大きく、全体の赤字額がかなり大きくなりました。

・ぼちぼちはうす建設などのために近畿ろうきん様から3500万円の借り入れをしましたので、その返済が月に15万円ずつ23年間続きます。

・2021年度から法人として建物をもちましたので、その分にかかわる支出が増えています

・2022年度から、地代が正規の金額に変わり、前年比1．8倍になりました。しかたありませんが、大きな財政圧迫要因になっています。

・5年間の経年状況のグラフが以下になります。2022年度は支出がはじめて1億2千万円を超え、過去最大の財政規模になっています。委託相談支援事業をのぞく、障害者福祉サービスでの収入がはじめて9千万円を超えました。特に、10月以降の下半期からはかなりの利用者増となっています。2018年の寄付は台風21号の被災に際してのものですが、20,21年度も、事業の形態を変え、自主事業と寄付金の募集を積極的に展開していましたが、寄付金に関しては、2022年度は5年間で最低となっています。



貸借対照表

（2023年3月31日時点）

科目		金額	科目		金額
流動資産	流動資産合計	34,491,153	流動負債	流動負債合計	3,888,696
	現金及び預金①	16,784,403		短期借入金④	1,207,577
	未収入金	16,976,980		未払金	370,204
	前払費用	701,400		未払費用	2,310,915
	立替金	1,200	固定負債	固定負債	32,740,203
	預託金	27,170		長期借入金⑤	31,532,626
			負債合計		35,421,322
固定資産	固定資産合計	46,833,871	正味財産の部		
	有形固定資産②	43,820,631	正味財産	前期繰越正味財産	51,203,783
	無形固定資産③	466,840		当期正味財産増加額	▲ 5,300,081
	投資その他の資産	2,546,400		正味財産合計	45,903,702
資産合計		81,325,024	負債及び正味財産合計		81,325,024

①現金預金が昨年度から約500万減

④近畿ろうきんからの借入の次期返済分

⑤ぼちぼちはうす建設などのための近畿ろうきんからの借入3500万円の残り

②有形固定資産は今回、ぼちぼちはうすを自分たちで建設しましたので、それが資産として計上されています。

③無形固定資産は寝屋川市長栄寺町５－１の借地権。その他の資産は保証金になります。駐車場立ち退きで減

<支出の部>	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
当期支出合計	103,849	105,086	101,944	111,621	122,915
次期繰り越し	46,831	49,651	52,598	51,203	45,903

2022年度 活動計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで　（単位：円）

科　目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合　計
Ⅰ.経常収益			
1.受取会費	455,000	0	455,000
2.受取寄付金	2,623,558	160,030	2,783,588
3.受取助成金	103,974	0	103,974
受取補助金		35,783,471	35,783,471
4.事業収益			0
介護報酬･移動支援収益／利用者負担	0	76,519,178	76,519,178
受取講師料	0	2,173,673	2,173,673
その他バザー、Tシャツなど売上高	38,000	34,250	72,250
5.受取利息	10	257	267
雑収益	0	15044	15,044
経常収益計	3,220,542	114,685,903	117,906,445
Ⅱ.経常費用			
1.事業費			
(1)人件費	0	91,371,799	91,371,799
(2)その他経費			
業務委託費		9,131,605	9,131,605
旅費交通費	30,000	155,287	185,287
車両費		271,827	271,827
車両燃料費		435,691	435,691
通信運搬費	54,527	532,933	587,460
消耗品費	97,394	1,702,099	1,799,493
衛生品費			0
ぼちぼちはうす活動費		239,339	239,339
修繕費		286,991	286,991

2022年度は、人件費がかなりの増。産休育休、時短のスタッフが増えてきていて、働き続けてもらえるための投資中。

2022年度の赤字の要因は、【収入】寄付金減／【支出】地代の上昇332万円増

人件費：対収入人件費率が77.5%（2021年度は72．8%）とデットラインの75%超。

水道光熱費、車輌燃料費、食材費、と物価高騰の影響を大きく受けました。特に、水道光熱費は前年度比3割増です

水道光熱費		1,934,821	1,934,821
食材費	48,618	551,479	600,097
地代家賃	532,800	7,307,687	7,840,487
賃借料	15,000	0	15,000
新聞図書費		23,271	23,271
保険料	99,158	869,190	968,348
広告宣伝費	52,733	59,400	112,133
印刷製本費		40,000	40,000
諸会費	185,000	17,062	202,062
租税公課	1	395,838	395,839
研修費		119,220	119,220
支払手数料	77,033	761,712	838,745
支払報酬料	40,000	968,000	1,008,000
ソフトウェア関連支出	13,200	701,356	714,556
雑費		20,880	20,880
その他経費計	1,245,464	26,525,688	27,771,152
事業費計	1,245,464	117,897,487	119,142,951
2. 管理費			
(1) 人件費給料手当	0	600,000	600,000
(2) その他経費接待交際費	0	0	0
減価償却費	232,251	2,066,270	2,298,521
リース料	0	372,023	372,023
支払利息	0	501,673	501,673
その他経費計	232,251	2,939,966	3,172,217
管理費計	232,251	3,539,966	3,772,217
経常費用計	1,477,715	121,437,453	122,915,168
当期経常増減額	1,742,827	△ 6,751,550	△ 5,008,723
雑損失	0	211,358	211,358
経常外費用計	0	211,358	211,358
税引前当期正味財産増減額	1,742,827	△ 6,962,908	△ 5,220,081
法人税、住民税及び事業税		80,000	80,000
当期正味財産増減額	1,742,827	△ 7,042,908	△ 5,300,081
前期繰越正味財産額			51,203,783
次期繰越正味財産額			45,903,702

昭和51年9月7日　第三種郵便物認可（毎月１・５・１１・１５・２１・２５日発行）令和4年6月5日発行OTK通巻5597号

1978年5月　寝屋川市民たすけあいの会　発足総会の様子

会員、寄付募集中

月額寄付サポーター募集中

寝屋川市民たすけあいの会への寄付は、寝屋川コミュニティフリッジやひきこもり支援、貧困なこどもたちの支援など制度では支援できない活動に活用させていただきます。

人 ❤ 夢 ❤こころをつなぎます

【編集】NPO法人　寝屋川市民たすけあいの会

〒572－0061　大阪府寝屋川市長栄寺町5番1号

定価　５０円

【発行所】大阪身体障害者団体定期刊行物協会

〒573-0017　枚方市印田町14－17　下野方